平成29年度　奈良県スポーツ推進審議会定例会　議事録

1　開催日時　平成29年9月7日（木）10：00～12：00
2　開催場所　奈良商工会議所　ＡＢ会議室（地階）
3　出席委員　佐久間会長、朝原委員、伊藤委員、千葉委員、中村委員、福西委員、松下委員、松永委員、宮内委員
4　欠席委員　田中委員、蝶間林委員、並河委員、根木委員、増本委員、山口委員
5　開会

〔司会〕

時間は少し早いですが、委員の皆様お揃いになられましたので、平成29年度奈良県スポーツ推進審議会定例会を開催いたします。今回の進行は、事務局を担当しております奈良県スポーツ振興課の上本が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

なお、本日、報道機関の方におかれましては、テレビ撮影、写真撮影は会議の冒頭のみとして、審議が始まるまでとさせていただきます。

それでは、開会に当たりまして、奈良県くらし創造部長の桝田より一言ごあいさつを申し上げます。

〔桝田くらし創造部長〕

みなさんおはようございます。委員の皆様には何かとお忙しい中にもかかわりませず、本日の奈良県スポーツ推進審議会にご出席賜りましたこと御礼申し上げます。
また、平素より、本県スポーツの振興にご理解、ご協力をいただいておりますこと、重ねて御礼申し上げます。

今年度からは、本日ご出席いただいております中村県議会議員、伊藤御杖村村長に、新たに本審議会委員に御就任いただいております。ありがとうございます。

本県では、平成２５年３月に策定いたしました奈良県スポーツ推進計画に基づきまして、スポーツの振興はもとより、様々なスポーツを通じた健康増進や体力づくり、さらには地域振興や地域の活性化などに取り組んでいるところです。今年度は、この計画が策定されてから、ちょうど５年目を迎える年になります。こういったことから、これまでの取組を振り返りつつ、奈良県の目指すべき将来像、あるいは方向性を盛り込みながら、計画の見直しをお願いしたい、このように思っています。

スポーツ界では、先週のサッカーワールドカップアジア最終予選で、ご承知の通り、日本の劇的な勝利に大いに感動したところです。

2019年にいよいよ迫ってきています、ラグビーワールドカップ、それと2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、国民・県民のスポーツに対する関心というのは非常に高まってきています。また、スポーツにおける期待も大きくなっている、そのように我々も感じております。
県といたしましても、こうした動きを追い風にして、さらなるスポーツの振興を図って参りたいと考えているところです。

本日は、先ほど申しました、スポーツ推進計画の見直しにあたりまして、委員のみなさまには長期的な展望に立って、大所高所から、また、先見的なご提言、ご意見を賜りたい、このように思っております。短い時間ではありますが、どうかよろしくお願いいたします。冒頭の挨拶させていただきます。ど

うぞよろしくお願いいたします。

〔司会〕
会議資料、次第等の説明。
委員の紹介、審議会条例説明および議事録等の公開等についての説明
議事につきまして、佐久間会長にお願いいたします。それでは、佐久間会長、よろしくお願いいたします。

〔佐久間会長〕
それでは皆様、改めましておはようございます。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。約半年、さきの３月に中間見直しの時にいろいろとご意見をちょうだいいたしまして、そして今日、それらのまとめ、また、さらにその時言い足りなかった、また、あるいは新たに気づいたことなど、ちょうだいいたしまして、後半期に向けてよりよいものを作り上げていきたいと思っています。後半期は５年ですけれども、当然のことながら、これは、ずっと続くということを想定し、１０年先を見据えたような形で考えていっていただければと思っています。
先ほど部長の方からご紹介がありましたけれども、この間、サッカーはじめ、水泳、柔道と日本は華々しい活躍をしています。20年のオリンピックも、また楽しみになって参りました。
そのような中で、本県の出身の選手はどのように活躍しているのか、ぜひまた、そこでも活躍できるような強い選手の育成等、みなさんのご意見をちょうだいしながら、なんとかよい機運をつくっていけたらなあと思っています。それでは、議事の進行に移りたいと思います。
議事に先立ちまして、署名人を指名させていただきたいと思いますが、福西委員、それから宮内委員、お願いできますでしょうか。

〔福西委員、宮内委員〕
了承

〔佐久間会長〕
はい、ありがとうございます。先ほども申しましたが、本県の審議会におきましては、できるだけ皆様方のご意見をちょうだいしたいと思いますので、活発なご意見をお願いしたいと思います。
また、それぞれの立場から、考え方が違うと言うのでしょうか、いろんな点があるかと思いますので、そういった点でも意見交換をしていければと思います。
では、お手元に配布されております、資料の議事１）スポーツ推進計画中間見直しについて、事務局より説明をお願いいたします。

〔事務局〕
資料に基づき説明。

〔佐久間会長〕
ありがとうございました。それでは、できるだけ早く進めたいと思いますが、不明な点等、大きくはライフステージ、ローマ数字のⅠ、それからⅡというものですが、これまでの前半期のものと少し整理

し直した形になっておりますが、これらをご覧になって、骨子案について、みなさん、それぞれの立場から、こういったものはどうなのか、というような問題についておうかがいしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

最初からいった方がよろしいでしょうか。とりあえず３ページ、ローマ数字Ｉの「ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツの推進」のところですが、１「だれもが親しめる地域スポーツの推進」というところで、一番課題が多いかなと思いますが、最初に出ております総合型地域スポーツクラブについて、福西委員、実際に指導に携わっていただいてる立場から、骨子案についてお気づきの点がございましたら教えていただければと思います。

〔福西委員〕

福西でございます。私は、総合型地域スポーツクラブの理事長で、日ごろから運営の方に携わっています。その観点から、誰でもスポーツを楽しめる地域スポーツの推進ということで、まず、総合型地域スポーツクラブとしては、質の向上ということで、いろんな形で学校・地域・行政との連携と掲げて、実際にやっておられるクラブもあります。ただ、必要や求められているけれども、実質やろうとするとほとんどボランティアの方がやっておられるということであって、資金繰りには非常にお困りになられています。

そのことを踏まえて、先に進んでいかないと、「連携・連携」といえどもなかなかやっていけてないのが現状です。ただ、精力的に行政なり学校なりと連携を、前段階で活用していただけること、機会が増えてくれば、やる中で勉強ができたり、お金を扱う方法であったり、そういうこともできていくのかなと。我々どもがよく困るのは、企業からの寄付であったりとか、一緒になってネーミングライツをいただきながらそこのイベントなりであったり、事業をこなすという時に、いかに企業とつながるかというのは、なかなか、総合型の地域の小さなところではできないところがありますので、その辺も含めて行政の方と一緒にやることで連携なんかを深めていけるのかなと。

我々のクラブ自身もなんとかそういうことをきっかけに、こういう場所にも来れるようになった。そういうことで、きっかけでいろんな勉強をさせていただいたこともありますので、そういうことを考えていきながら、質の向上を図っていくことで地域に携わっていくというようなことが必要ではないかなと思います。

全体でお話させていただくと、情報発信というところで、前回もお話をさせてはいただいた、４番目の「スポーツイベントや施設情報等に関する情報発信力の強化」ということなんですけども、SNS 等の行政等に一元化をしていただいて、そこに総合型であったり、地域のスポーツチームであったり、協会等があると思います。そこにこれだけのたくさんのイベントとか講習会などがあります。その情報を実際には我々もなかなかとらえきれていない、出す側としてもなかなか実際にそれを要求されているところに届いていないことが多々あります。今の現状でもやれることはいっぱいあると思いますので、一元化をして、その地域の団体にそれが下りて来ると、例えば、我々であれば、私のところに来て、総合型で地域であれば、多い所であれば 500 人くらいの会員さんがいらっしゃいますので、そこに我々から必要な情報を一斉に流す、ということをやれば、全然違う。地域のこともわかります。それと我々が逆に発信する場合、発信するといっても我々ビラをつくって置いたりすることが多いんですね。その逆ルートで行政に一元化されることで、その情報を頭に入れることで皆さんに流していけるような形になれば、労力もそうですし、例えばポスターであったりとか、そういうことをやるだけでも奈良県全体に今スポーツでどんなことが起きているのか、どういう風な勉強会があるかとか、隣のところはこんなことをし

ているよ、ということが、毎日末端の実際にやられるところまで落ちてきて、また、それを逆に上にあげることもできる。それがデータ化されることで、ここまでいけるかどうかは別にして、大きなとりまとめをやれば、マーケティングにもつながるのかなと。全然やりたくない人のところに情報がいってもしょうがないと思うので、そういうのをやるためにもぜひ、SNS 等を使う、一元化をしていただければ、非常にそういう情報発信ができるのかなということです。

あともう一点、指導者養成というところで、行政であるというところなんですけれども、ここは、技術的な点とかは、わたくしどもはサッカーが中心なんですけども、協会であったりとか、競技団体が情報発信をしたり、講習会をするということは多々あるんですけれども、実際に県レベルで本当にやっていただきたいとか、私達も逆にやりたいというのは底辺の部分ですね。ちょうど宮内先生がいらっしゃるので私がいうことではないことかもわからないんですけれども、単に体を鍛えるということだけではなくて、その一歩手前けがの予防のための体力向上であったり、コミュニケーション能力であったり、いじめのことであったり、そういう風な本当に底辺の部分というのは、行政の方でいろんな形をとっていただいたり、計画が出てくることで、非常に役には立つのかなと。

それとそれの一つとして、著名人、有名な方がいい訳ではないんですけれども、やはり、実績がある方がやったりとか、まずは皆さんに興味をもっていただいて、その話を聞きたいと、思うような方に巡回というか、年間通して各地域をまわっていただけるような仕組み等があれば、そこに興味を持つと。最近よくいじめとか例えば暴力的なことがよくありますけど、なかなかそういう方に言っても実際に来ないと思います。もう自分のやり方を確立されていますので。そうじゃなくて、逆に呼びこもうと思えば、そういう風な著名な方に回ってもらう、実績のある方に回ってもらうことで、底辺の指導者育成ができるのかなと、今現在やっている中でもそういうことは可能なのかなと。

あと、医学というんですかね、スポーツ医学という言葉は、まあ言えばわからないんですけれども、その辺については、勉強会とかには行ったりするんですけれども、実際的にはそれが県全体で何かが動いているとか、そういう施設がここにあるとか、なかなかできてない状況なんです。これはもう何がベストか、専門家でないのでわかりませんけれども、やはり何らかの形でチームが一つできて、1年、2年、3年でそれが浸透するように、何かそういうチームづくりというんですかね、全体でのチームづくり。各クラブ、各地域だけではなかなかできていかないので、ぜひそういうところを考えていただければなと思います。少し長かったんですけれども、だれもがスポーツに親しめる地域スポーツの推進のところで話をさせていただきました。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。福西委員からいくつか指摘されましたけれど、特に支援体制という問題ですね、先ほどネーミングライツも指摘されましたが、やはり行政的に関わって、支援制度にはおのずから限界があると思うんですが、そういった面について、特に企業という面で松下委員いかがでしょうか。特にアシックスはいろんな開発を含めていろんなところで関わっておりますが、特に地域として関わりというのは、昨日の日経新聞ですか、神戸市の商工会議所会頭ですか、そこを中心になって出ていましたが、こういった地域スポーツクラブに対しての何か提言等ございましたら教えていただければと思います。

〔松下委員〕

失礼な言い方になったら申し訳ないと思うんですが、全体的にお話申し上げて、計画の内容に関して

文句があるということでは全くなく、非常によくできた内容だと思うんですが、一昨年、その前から比較していくと、全体的にトーンダウン感みたいなものが感じられるのではないかなという風に感じています。まずもって、全体的に、イメージ的にプロの存在の欠落というか不在というのをどうしても感じてしまいます。朝原さんがいますが、彼がやっている NOVY T&F CLUB、積極的に奈良で活動したいというような土壌がどこかにあるんだろうか、というところ。例えば SNS 等情報発信する、昨日、一昨日、大阪商工会議所でスポーツのシンポジウムみたいなものがありまして、スタッフの方がいろいろ面白い話をされてましたが、スタジアム周辺の情報を集約・収集して、それを将来予測、未来予測した上で、例えば女性の方のトイレの誘導であるとか、食べ物の誘導であるとか、待ち時間をこう使ってもらうような情報発信であるとか、みたいな話を盛んにされてました。

そういう意味においてのプロの存在の不足というかそういうところがどうしても出てしまっているのかなと。これは内から育てるということの難しさ、人のことを偉そうに言えた立場ではなく、非常に難しいんですが、それぞれのプロが活躍している世界からそう意味においては、その方々を呼んでくるのも一つの方法なのかなと思いますし、同時にその方々が寄ってくるような魅力あるものをまずもって一つつくりあげる必要性があるのかなと。

最初の一歩の出方が、こわごわだと、周りも後ろで立ち止まるという状況に何となく映っているような気がしてなりません。非常に失礼な言い方かもしれませんが、その最初の一歩の踏み出し方を、あまり多角的にやらずに、集中した踏み出し方をするべきではないかと感じております。以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。多角的にということも、そうなんですが、特に、そこに目玉となる人を呼び、惹きつけるだけの人、あるいは物を用意しなければいけないと感じます。

先ほどから情報発信、それから指導者の問題というのが、いろいろと挙がっていますが、特に、人を集められるというのは失礼な言い方かもしれないですが、実際に、そういったものに携わってみて、どうだったのかというのを千葉委員から、お聞かせ願えればと思います。

〔千葉委員〕

私自身は逆の立場に立ったことが分からないので、自分のことをすごいとは思っていないんですけど、周りに「もったいない」ということを、よく言われます。奈良県に住んでいるのに、ひとつもお呼びが掛からないと。

べつに仕事が増えるとか増えないとかではなくて、私に限らず、関取もいますよね。そういう人の旬のときを、すごく逃していて、チャンスが流れてきても見過ごしている、眺めているのが奈良県かなと思います。チャンスがないわけではないのに、それをつかもうとしない。いつまでたっても遠慮の塊。内気だったり、県民性と言ってしまえば、それまでなんですが、「いつまで、おしとやかにしてるねん」という。

おしとやかにしていて恥ずかしいけど、なかなか声は掛けられないけど頑張ってやりたいです、みたいな、「どっちやねん」みたいな。それが県民に伝わっていて、県民も「奈良県は、どうしたいねん」という。

いつまで経っても曖昧で、一本の筋が通っていない。あれも頑張りたい、これも頑張りたいんですけど、どうしたらいいんでしょう、という話し合いばかりで、一つも核につながっていないというか。でも、やっぱり時間は経ってしまうし、とにかく考えるよりも実行にあらわして、とにかく何でも行動。

がむしゃら感というか必死感が伝わらないですよね、情報発信するのでも。大阪だと、しつこいぐらいに「今度のイベントは、こういうふうにします」というのを、どれほどチラシやポスターで見るねんという、興味がなくても「何日に誰々が来る」とか「何日に何々をする」というのが、むちゃくちゃあるのに、奈良は一向に、選挙ポスターしか目にすることがないんです。

そうではなくて、興味のない人でも、「あ、こういうことがあるんや。行きたいな」とか「参加してみたいな」とか、スポーツに限らず、アンテナを張っている人に、ちゃんと届けるようなことをしないと、何だかんだ、いろいろなことを、ちょこちょこ話し合って改革しようと思っても、なかなか事につながらないんじゃないかなと、ざっくりなんですけど、そんな感じだと私は思います。

物事が出来上がってから「この点を改善したらよかったですね」とか「もっと、こうしましょう」ならいいけど、そこにたどりつくまでに、話し合いだったり、会議だったり、「どうしたらいいでしょうかね」が、ごちゃごちゃとありすぎて、日本人の悪さが一番出ているのではないかと思います。

そこを突破して、ぽんとやってしまえば、「案外簡単やったな。案外いけたな」というふうに、まず突破口を開かないと、いつまでも奈良県は中途半端に終わってしまうのではないかという気はしています。県民的には。

だから、さっき松下さんが言われたように、はっきり言って、利用できるものをできていないです。自分もそうですけど、朝原さんのような知名度のある人には、ある意味、お金うんぬんではなくて、してくれるという人には、そこは甘えていいんじゃないかなと。

甘え下手というんですか、なかなか言えないとか、すごい人だからとか言っているばかりなので、言ってみて駄目なら駄目だし、どのスポーツの人でも、よければ、その人は来てくれるので、絶対に言っていないだけだと思うんです。

そういう人に、「どうしていいか分からないんです。力を貸してください」と言った方が、まだいいけど、そこまでにも行かず、ごちゃごちゃ考えているような気がして、そこが下手なのかなとは思っています。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。かなり耳の痛いことでしたけれども、確かに、人という面で、いろいろと検討すべき点があるかもしれません。後で、また詰めたいと思います。利用できるものを利用するという点では施設の問題もあるかと思いますが、まずは朝原委員のご発言を伺ってからにしたいと思います。

〔朝原委員〕

私は結構、使い倒されている方なので。奈良県さんにというわけではないんです。私は京都に住んでいて、神戸出身で、大阪に企業があるということで、それぞれの顔があって、それぞれに「出て来いや」みたいなのはあって、その点は満足しています。

企業側で話をすると、福利厚生施設がしっかりしているところは多くないと思うんですけど、弊社はグラウンドがあって、室内があって、一応プールもテニスコートもあります。そういうところをうまく利用しないといけない。

そういうことがあるから、先ほど松下委員が言われたように、何もない、ぽわっとしたところで何かを始めましょうというのは、すごく難しくて、いくら、いい人を集めても、やっぱりやる場所がないと駄目とか。では、やる場所ありきかというと、そうでもないとは思うんですが、でも、まず人が集まって何かをしないといけない。

その施設だったり、場所だったり、機会というものが必要で、私がやっているトラッククラブも、いま400人ぐらいになっているんですが、やっぱり、あの施設があるから、あれだけ人が集まっているんですね。雨の日も室内を使って練習ができたりということで、なかなか、そこまで整うのは難しいんですけど、言い方を変えると、そういうのがないと、まずはできない。

それが中途半端ではなくて、本当に、今の奈良県さんのスポーツというところを打ち出したような、すごい全天候型のハイテクアリーナみたいなものをつくれるのであれば、そこに人は寄ってくると思います。やっぱりお金が掛かることなので簡単ではないことは分かりますけれども。

ＮＴＣにしても、そうですね。あれを建てたおかげで、すごい選手と交流もできてきたということもありますので、まず何か工夫をして、みんなが集まれるような場所や機会を目玉としてできれば、全国的にも、全天候で室内で、誰もが使えて、商業的にもよくてというアリーナは、そんなにないと思いますので、そういうのは目玉になるかなと思います。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。設備についても朝原委員の方から指摘がございましたけれども、松永委員の方で、ご専門の立場から、いろいろお気付きになった点を伺いたいと思います。

〔松永委員〕

１番については、私から一つだけコメントさせていただきます。

見直しの骨子案ということで、いままでのご発言とも関連してくると思うんですが、全体的な視点から言うと、やはり奈良県らしさ、奈良県の計画の、ほかの都道府県とは違うポイントはこれなんですというのが、申し訳ないんですけど、まったく見えないんです。それは、あった方が絶対にいいと私は思います。

私は奈良県に住んでいるわけでもないですし、大学もないので、最初に委員をお受けするときに、地元にゆかりのある方がいいんじゃないですかということで、お断りをさせていただこうかなと思ったのですが、近畿の、ほかの策定にも関わっていたので、ということでしたので。

例えば京都であれば、幾つかポイントはあるんですが、一番のポイントは競技力向上。これは賛否両論あると思うのですが、計画の中に「国体８位」というのを掲げていて、京都府のトレーニングセンターをつくったり、タレント発掘事業をしたり、国体第１回の開催府という目玉があるとはいえ、このご時世で、国体が近いわけでもないのに「国体８位」を毎回、計画に掲げ続けるという、そこに予算を付けるというのは、一定、京都府の一つの目玉かなというふうに思っています。

滋賀県であれば、やはり琵琶湖がありますので水辺の活動ということで、子どもたちに必ず小学校の間に琵琶湖の研修施設で研修させているということもありますので、琵琶湖に関連した項目を計画の中に掲げておられる。それがメインではないにしても、その都道府県に特徴があるので、発信力があるんですね。

これは、やっぱり県民の方に注目していただいて、認知していただいて、アクションを起こしていただくということもしていかないといけないので、よく言われている、計画策定をして、冊子をつくって机の上に置いているだけで、何年かしたら評価しますみたいなことだと、もったいない。

何か、奈良県さんの目玉というか、目玉までいかなくても、他にはないような、「奈良県らしさは、これなんです」というものは、つくられた方がいいと思います。それが、なかなかないなと思います。

最近、大阪市さんの計画策定に関わったのですが、大阪市独特の「稼ぐ」というのをキーワードに入

れられました。稼ぐというと、お金を稼ぐというイメージで、これも賛否両論、議会でもいろいろあったんですけれども、稼ぐというのは、例えば、健康になるために歩数を稼ぐとか、心を豊かにするために稼ぐというふうに「稼ぐ」という中身をしっかり説明して、大阪らしさを出しながら、お金だけではないと。

でも、お金は、やっぱり大事で、いままでのスポーツの中で、お金を稼ぐことが悪というか、そういったところも含めて、やっぱり資金がないと何もできないところもあって、もちろん民間と共にというところで、お金を稼ぐというところも、人材育成も含めて、お金がないとできないこともあるので、「稼ぐ」というのをあえて、メインではないんですがサブタイトルに入れたりしています。指標のところで「稼ぐ」というのも、しっかり検証できるようにしています。

いま幾つか事例をお話ししましたけれども、見直しなので、次の５年目に思い切ってというのでも構わないので、それに向けて準備を始められた方がいいのかなと。この段階で、いきなりは難しいと思いますので、そういう印象を受けました。

１点だけ、いまの佐久間先生の問いに答える明確な、ちょっと変えてもらいたい点が、３ページ、ライフステージの１、（４）スポーツを支える環境づくりのところで、先ほど福西委員からもお話があった、①スポーツ指導者の確保、養成に、ぜひマネジメント人材を追記していただきたいと思います。

皆さんがお話しされたことは全て、マネジメントのところにもキーワードが重なってくると思いますので、「スポーツ事業者・」でもいいですし、「及び」でもいいですし、そこはお任せしますので。マネジメントする人材を養成していかないと、いま皆さんがお話しされたようなことや、ここに掲げたことを誰がやるのということと。

あと、資料６にも記載があるんですが、これを行政だけがやるのではなくて市民がやっていく。佐久間先生のコメントには「スポーツを支える団体の設立」と明示されていますが、私も京都市で、ずっと言っているんですけどリエゾンですね。つなぐ、橋渡し。誰がつないでいくのか、誰がそれを橋渡ししていくのか。

これに書いてあることを全部、どういうふうに実現していくのかといったときに、行政だけでは難しいと思いますので、その辺りのところも、今回はマネジメントの人材にとどめておいて、今後、そういった組織づくりも視野に入れていかなければいけないのかなというふうに思います。

コメントとしましては、（４）の①に「マネジメント人材」を追記していただきたいということです。以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。これから、いろいろなものを発展させていくには、人・物・金、それから情報と、それを統括する組織が必要となってくるんですが、その中のどれが欠けても発展はあり得ないと思います。いま、ご意見をいただいた中で、本県がスポーツ振興の場合に、どういったものを目指していくのかということでも、いろいろとご意見があったと思います。

私はいつも言うんですが、八ヶ岳型を目指すのか、富士山型を目指すのか。要するに、特化した、ある種目を強くすることによって底辺を広げていくのか、あるいは、施設をつくり、指導者を養成して、そういったかたちで子どもから底辺を広げていって、いずれ、その中からトップの者が出てくるかたちにしていくのか。

これも議論の尽きないところだと思いますが、先ほどから言われているように奈良県らしさがないという意味では、もう少し種目や競技、場所などに特化することは必要なのかなと、委員の方々のご意見

を伺って思っています。

行政側の方で中村委員、いかがでしょうか。

〔中村委員〕

いろいろな話を聞かせていただきまして、ありがとうございました。

奈良県は全国で指数が「1」なんですね。135 万人という人口で、何をしても全国の1％が奈良県の実態なんです。いままでのお話を聞いていて、やはり背伸びをしても駄目なんですね。アリーナをつくるとか、何をするにしてもお金が要りますから。

先週もスイムピア奈良に行ってきたんですが、これは国際競技の公認記録を、天理大学と一緒で、やってもらえます。しかしながら、普段は指定管理で一般の方が来ているようなことだけです。

だから私は、奈良県のスポーツ振興というのは、小学、中学、高校の体育の振興。スポーツも、限りある一生の中で社会に出て健康で充実した人生を送るための一助なんですね。そういうことを考えますと現場の目的としては、国体なんかには、やはり一生懸命やってもらう。その中で、またアスリートが出てくることも一つの手段なんですが。

朝原先生も千葉さんもおられますが、トップに出るのは本当に個人の努力です。組織とか個人の親とか、そこら辺にしわ寄せがかかってきて、いろいろな施設がありますが、一人のリーダーで 24 時間中、一生懸命練習をして世に出て行っているのが実態ではないかなと。そうでない人もたくさんいらっしゃいますが。

だから二つに分けて、トップアスリートを養成するためには、施設は財政の豊かな国やスポーツ庁に任せ、小さな奈良県は、そういう施設建設は。またイベントなども、いま奈良マラソンもやっていて非常にたくさんの人が来ているけれども一過性なんです。

イベントは、あくまでも一過性で、人の心に残るのは、オリンピックで日の丸に感激する人はたくさんいるけれども、マラソンに参加した人と、それを観覧した人は感激するけれども、それも薄れていくわけですね。

だから奈良県のスポーツ推進というのは、やはり幅広く小中高でスポーツを振興する。そのために最も大事なのはリーダーの養成なんです。いま教育現場において先生が忙し過ぎて、部活がどんどん減ってきているわけです。部活が盛んでなければ有名な選手も出てこないし、どうするのかと。

教師ではなく専任のプロを各小中高校に雇う。その費用負担は行政がやっていく。こういうふうに変えないと、なかなかスポーツの振興の実態というか。新聞、テレビで優勝した、何々したというのは国民としてもうれしいけれども、本当のスポーツは。

そこは、やはり運動会などを基本にスポーツ振興というのはあるべきだと私は思います。

だから、小中高のプロの専任のコーチを公費で雇って各学校で養成をして、その中で有能な人は立派なコーチの指導を受けてオリンピック等を目指してもらう。

あくまでも一般市民のスポーツを広げていくのが、これからの、特に奈良県の場合は「やまとは国のまほろば」という、山紫水明に恵まれた土地なので山岳とか、奈良県の風土を生かした新しいスポーツに目を向けていくのも一つの方法ではないかと。私の所見でございます。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。また、ここでも指導者の養成等が出ていたのですが、その背景には底辺の

拡大と、それから強くするといいますか、さらに高度なスポーツへと結びつくには専任の指導者の養成をしていかなければいけない。それには、またお金が掛かる。そういったお金を、どこで、どういうふうにしていくのか。

これは私の大学の事例ですけれども、私もスポーツ振興の担当で学生たちとやっていますが、学内予算では、おのずから限界があるということで、指導者は、それぞれの企業、あるいはＯＢ会といったところからプロ契約で来ていただいています。

県も、そういった面で何か奨励金のようなものをつくって、それを、企業から集めるということをやっていかないと、施設はつくっても、それを運営したり活用していく人にも限界があって、思うようにいかないのではないかと思います。

いまは、どちらかといいますと健常者を対象にしてきたんですが、オリンピック・パラリンピックの奈良県の現状はどうなのか、宮内委員の方で情報がございましたらお願いします。

〔宮内委員〕

そんなに詳しくはございませんが、昔、奈良県は車いすのバスケットボールがすごく強くて、最近それが駄目だと。障害者のスポーツイベントに参りますと高齢なんです。若い子が、あまり来ない。なぜだというのが問題なんですが。

私は整形外科医ですので脊髄損傷の方をたくさん診ております。彼らは仕事があったり、他の楽しみを見いだしてしまって、バスケットボールにあまり興味を示していないような現状です。片や、障害者と言われる人たちの中で、老齢になったための障害で、老人クラブのスポーツ大会になってしまっている現状があり、これでいいのかと感じているところです。

一般的な障害者ばかりではなくて、一般的な高齢の方がスポーツをできなければ足腰が弱るわけで、整形外科でロコモ活動というのをやっておりますが、これを防ぐためには何がいいかというと、ものすごく高い運動能力があればいいんですが、一般の方の運動能力を開発するには、きっかけと習慣です。取りあえず運動するきっかけを何かでつかんでいただく。それを続ける。これが絶対だと思います。

一つ、すごくレベルの低い話がありまして、保健師さんを各市町村に一人、派遣するわけです。その人に行政からの仕事をさせない。何をするかというと運動をして、市町村の各自治会を回って、それを毎週、ずっと続ける。それをやると全体的に向上するのではないかと。

私の言っているのは、競技レベルのメダリストをつくるためのものではなくて、県民の健康を、どうやって底上げするか。私は、それが大事だと思います。そういう人たちを送り込んで、それで全体が変わります。行政の仕事はさせないで、健康指導だけをしていく。それが非常にいいことだと思います。

やっている市町村を一つだけ知っています。それを一生懸命やっているんです。そこは毎週、午前、午後、月曜日から金曜日まで、ずっとやっている。それも大変いいことだと思っています。

もう一つ、奈良県らしいことをとおっしゃいましたが、奈良県の特徴としては、奈良盆地の平らなところに、かなりぽつぽつと名所がある。飛鳥、桜井、大神神社、天理、平城宮、西の京など、多いんですね。これを、ずっと見ると輪になっているんです。スタンプラリーのように回ればいいんですけれども。

スポーツの問題点は、膝を傷めてはいけない、腰を傷めてはいけない。なおかつ、バランス能力と筋力を強められるといいんですが、それを全部そろえるのは何かというと、私の偏見ですけれども自転車しかない。

歩くのは大変です。走るのは、もっと大変です。膝に来ますから。一般の人間にとっては自転車がい

い。自転車に乗ると膝は内側に入りませんから膝の障害は少ないです。ただ、こければ損傷したりしますけれども。

そういうことで、「びわいち」（琵琶湖一周）のように、奈良県のおもだったところをつないでしまうというのは非常に有効ではないかなと思います。個人的な意見ということで、以上です。

〔佐久間会長〕

最後の方は将来的なスポーツ普及につながるような形で、まさに高齢者も含めて考えられるかと思いますけれども、そういったことについても、もっと情報発信をしていかなければいけないかなと思います。

町村レベルで、やはり地区のコミュニティーの中心は学校だと思いますので、小学校や中学校の施設開放を含めて、活用を図るべきではないかと。それが底辺を広げていって、将来的にはトップも育っていくのではないかと思うのですが、そこにも、また指導者の問題が出ているかと思います。

そういった指導者の雇用も含めまして、小中学校の現状等をお話しいただけたらと思います。伊藤委員、お願い致します。

〔伊藤委員〕

この委員になるのは私でよかったのかなと、いま悩んでいるところです。町村会の持ち回りということで委員にならせていただいたわけですが、話が大き過ぎて、ちょっと付いていけないところもあります。

この話には関係ないんですけれども、私の村の紹介をさせていただきますと、いま人口が 1,660 人ほどで、そのうち 65 歳以上の方が 54%を超えています。小学校の生徒が 22 人、中学校が 20 人で、小中を合わせても 50 人もいないんです。こういう中で、こういうお話を聞いていると、一流アスリートをこしらえるというのも、かなりの難しさがあるなと、いま思っています。

先ほども少し話があったようですが、私も考えていますのは、子どももなんですけれども、まずスポーツはみんなに参加していただいて、健康のためにやっていただくのがいいのではないかと思っているところです

うちのスポーツというのは実際のところ、子どもたちが団体のスポーツをできるかといったら、できないんです。個人的な陸上とか卓球という感じで、団体では、どうにかバレーボールをやっています。そういう中では、おそらく自分に何が向いているのかということも分からないままではないかと感じているところです。

特に私のような過疎の村では、町村単独は、なかなかできない。やっぱり隣の村などを巻き込んで、ある程度、団体でできるようにしていかなければならないのかなと思っているところです。

またクラブというか、自分たちでやっているのはゲートボールとグラウンドゴルフだけなんです。これは、かなりの人数が参加してくれています。それも、いま言いましたように健康のために参加しているのが多いのではないかと考えているところです。

なかなか、私のような村のレベルで指導者どうのこうのというのは難しいところがあるわけですが、ただ、子どもたちに運動、スポーツの楽しさを分かってもらうのは大変重要ではないかと思っております。

それと、いまは保育所、小学校、中学校が合同で運動会をしているんですが、そこに参加してくれる村民の方を見てみましても父兄だけなんです。昔は、やっぱり地域の運動会には、その地域の人、全て

が参加してくれていたんですけれども。そういう意味では、盛り上がりというか、村の活気というか、運動会も含めてスポーツの中で、そういう雰囲気をつくっていくことが重要ではないかなと思っているところです。

これから、また話があると思うんですが、うちの方もイベントとしては、いろいろやっております。タイムトライアルではないのですけれども、村に伊勢本街道が通っておりますので、伊勢本街道観光マラソンというものをやって、約300人の方の参加をいただいています。

それと、今年2回目なんですが、昭和12年につくられた小学校の校舎を利用して雑巾ダッシュといいますか、こういう素晴らしい101メートルの廊下があるんです。ここで雑巾をかけていただいてタイムを競うというのを、今年で2回目ですが、やろうと計画させていただいています。

こういうことで、スポーツを通じて村の良さ、それから村の名前も覚えていただければということで取り組んでいるところです。いずれに致しましても、なかなか施設をつくることもできませんので、いまある施設、建物を何とか利用できないかと頑張っているところです。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。過疎の村になりますけれども、非常に少ない子どもたちの中でのスポーツ活動の現状を知ることができたかなと思います。

委員の方々から、それぞれの立場を中心にご意見をちょうだいしましたが、委員同士で、あの委員のおっしゃったことについて私はこういうふうに考えるとか、もし、そういったご意見がございましたら、どなたからでもお願いします。

〔松永委員〕

先ほど奈良県らしさという発言のところで、京都府さんの競技力向上や琵琶湖の話は例えばの話で、それを目指してくださいとか、そういうことではないので、あくまで参考ということです。

その点を踏まえて、最初の5年前の計画策定の委員ではなかったので、ちょっとその辺の話を方法論として教えていただきたいんですけれども、この計画策定の中で、3ページにも掲げられている「【目指す姿】活き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」、この「健康長寿」が奈良県らしさと私は受け止めています。

本体の計画の4ページの一番下に「県民の健康寿命の日本一達成を目指そうとする、なら健康長寿基本計画と連動させながら事業を推進します」と書いてあります。ほかの計画と連動させることをスポーツの計画に掲げているところは、なかなかないんです。なので、これを第2章の計画の理念と目標のところで書いてみるということは、たぶん奈良県らしさは、ここではないかと思っています。

ただ、中を見ていくと、例えば健康寿命が、この時点で何歳で何位なのかも分からないですし、ゴールが日本一なんですけれども、では、いま半分に来て何歳で何位なのかも分からないですし、奈良県らしさを、ここで打ち出しているのに、残念ながら、この見直しでは、その件には、まったく触れられていない。

第2期のスポーツ庁からの計画が出て、ほかの都道府県も追随して、いろいろ変えられていて、委員からもいろいろお話があって、そちらの方に目が行きがちだったと思うんですが、ここに立ち返った方がいいのではないかと思いました。

併せて、タイトルが表紙にも載っていますし、概要版にも載っているんですが、「Sports for Everyone with Smile」というサブタイトルは、すごく重要なんですね。どこの都道府県も、計画で何をやってい

るのかと探すときに、このサブタイトルに、いろいろな思いが込められているというふうに普通は思うんですけれども、残念ながら、この中にSmileについての言及もないですし、サブタイトルに関連する笑顔などの記載も、ほとんどないですね。

この辺りの整合性というか、見直しのときに思い切って修正、追記をされた方がいいのかなと。5年の見直しで急に、新たに奈良県らしさを付け足すことはできないと思うので、健康寿命や健康長寿のところを、もう少し大切にされることが奈良県らしさになるのではないかなと。言いっぱなしだと無責任なので、ここをもう少し補填されたらよかったかなと。

すみません、前回の会議で、もう少し言えばよかったんですけれども、よろしくお願いします。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。松永委員の発言につきまして、事務局から説明いただけますでしょうか。

〔桝田くらし創造部長〕

おっしゃっていることは、ごもっともだと思います。各委員のご意見を、なるほどと思って聞かせていただいておりました。

いまの松永委員のお話ですが、健康長寿の奈良県が目指すべき姿、こうなりたいということで、その横に書いております基本目標、サブタイトルの話もありましたけど、これは、どちらかというと手段だと思います。スポーツに親しむ環境づくりをすれば必ず健康長寿になるのか、ではないと思います。私の考えですけれども。

健康長寿というものには、いろいろな要素があって、福祉であったり医療であったり、ひょっとしたら観光というのもあるかも分かりません。ただ、奈良県の目指すところは、スポーツに親しむ環境づくりを通して健康長寿の奈良県に寄与したい。

ただ、計画の体系のまとめ方として、すとんといかないのではないかというご指摘だったと思います。そこは事務局も精査させていただきたいと思います。ここで思い切って、ビジョン、目指す姿を変える議論をするのかというのは、これからの議論で、ちょっと勉強します。

後半期の5年間に何ができるのかということと、会長がおっしゃったように、何ができるかどうかを考えるときに、その5年だけではなく10年先ぐらいを見据えようというご示唆だったと思うのです。

ただ5年間で何ができるのかということを、今日いろいろいただいたご意見を踏まえて本にまとめるだけではなくて、例えば10項目ある中の二つや三つは、とがったところを見つけるとか、そういう作業を、この数カ月間でやっていく必要があるのだろうと思います。

当然、人・物・金、それとマネジメントということが背景になければ実現しませんので、それは、われわれも押さえていくのですが、今日いただいたご意見を踏まえて、5年間で何ができるのか、10年先を見据えましょうと。

私の主観ですが、奈良県らしさは悩んでいるんです、頑張っているんです。ただ伝わらないんです。皆さんからご意見をいただくということは、思いが届いていないのだろうと思います。

個々の説明はしませんけれども、昭和59年に、わかくさ国体があって、奈良県の体力の精いっぱいで、わかくさ国体の基盤をつくって、それをリニューアルしながら、新しい施設も追加しながらやってきたというのが、いまに至っている経緯だと思います。この現状を見なければいけないと思っています。

その上で、先ほどから、なるほどなと思って聞いていたのは、やはり人・物・金、運営と考えるときに、いままでは、奈良県の仕事はこう、市町村の仕事はこう、教育委員会はこう、企業さんは自分のと

ころで宣伝するという流れが、やはり、いくらかあったように感じています。

そうではなくて、奈良県ぐらいの人口規模のところでは、使えるものは全部使おうということで、それを、いかに計画に、文字にできるかということを考えていく必要があるのかなと思っています。

その延長線上に奈良県らしさ、要するに地勢条件であるとか、文化であるとか、そういったものがバックグラウンドとして当然あるというようなことで、何とか考えていきたいと思っているところです。

〔佐久間会長〕

松永委員、よろしいでしょうか。

〔松永委員〕

健康長寿の情報をいただければと思います。

〔三原スポーツ振興課長〕

健康寿命ということで、65 歳の方の平均自立期間という定義になっておりまして、これは男性の方が、手元にあるのは平成 27 年なんですが全国で第 3 位と、かなり上位になっております。

〔村田健康づくり推進課長〕

なら健康長寿基本計画を担当しております健康づくり推進課です。

ご質問のありました健康寿命のデータは、いま三原課長の方から説明させていただいたように、いろいろな算出方法がございまして、奈良県では 65 歳時点の平均自立期間ということで、65 歳から介護を必要としない期間がどのぐらいあるかというところで計算させていただいています。

これは各都道府県で出し方が違うのですが、直近値の平成 27 年で、男性では 18・20 ということで、65 歳から 18・20 年の自立した期間があると。女性では 20・80 です。全国平均で申し上げますと、男性の方は、計画を立てた当初、平成 25 年には 13 位だったのが現在は 3 位となっております。女性は、計画当初は 41 位だったものが現在は 28 位ということで、順位は上がっております。

先ほど言いましたように、健康寿命ということについて影響があるのはスポーツ、運動ということもそうなんですけれども、がんの対策であったり、また医療や介護予防など、いろいろな取組があろうかと思います。

それを全部、横串を刺すかたちで、なら健康長寿基本計画を、このスポーツ推計画と同時に 25 年に策定させていただいて進めておりますので、私どもとしては、やはり健康寿命日本一については奈良県の一つの押しなのかなというふうに考えております。健康寿命日本一は、どこの都道府県も目指しておりますので、いまは非常に、それぞれが競い合っているという状況です。

〔松永委員〕

ご説明ありがとうございます。いまのご説明の 3 位もすごいなと思うんですけれども、目指すべき姿で掲げて、計画の理念にも掲げているんですが、その説明や現状、評価の仕方が記載されていないので、それが追記された方がいいのではないかということと。

もちろん、健康はスポーツだけではないので、べつに日本一を目指すことを目標にしてくださいということではないんですが、書いてあることのご説明が、もっとアピールされたらいいのではないかなと。それが骨子の中にもつながってくるということで、この見直しの機会に追記されたらどうかなというと

ころです。

算出方法等もあるので、あまり具体的には明記できないかもしれませんが、これが奈良県さんの特徴になるのではないかと思います。

〔三原スポーツ振興課長〕

ご指摘のとおりで、なら健康長寿基本計画というのが、策定のときに一つの大きな歯車ということで、そこに関連して医療費の関係であったり、介護予防であったり、それぞれに策定している計画を連動させるというスキームで前回の計画を立てて、スポーツも、その中の一つの歯車になっていますので、もう少しスポーツの側でも、そういった指標などの追記を少し丁寧にさせていただきます。

〔佐久間会長〕

目指す姿のところで健康長寿というのが引っ掛かりのところかもしれないですが、それを詰めていく上で非常に大きな手段となるのが、ある意味では運動、スポーツであると思います。

その運動、スポーツをどういうふうに展開していったらいいのか。先ほどから言われているように、人・物・金をどういうふうに絡めていって、そして最終的に健康長寿の奈良県という特徴を出していくという考え方もあると思います。

私も最初のころに申し上げたと思うのですが、前半の５年間で、健康長寿という意味では、どれだけ延びて、どれだけ医療費が節約になって、運動の効果が見られたのか。ぜひ、それを知りたいと、だいぶ前にも申し上げたと思います。長野県の松本市とか、いろいろやって成果をあげているところがあります。

いまの人たちは、健康には運動が必要だというのを分かっているわけですね。いろいろな情報が入ってくるし。それでも、なかなかできないのは、どういったことだろうと。むしろ、そこを、あるいはスポーツに関心のない人の関心を向けるには、どうしたらいいのか。

そういったところの一つの大きな根拠となるのが、健康ということに、具体的に、こういうふうに変わっていくという一つの指標は欲しいということと、それから、指標というと数量的なかたちで分かるものしか出てこないんですが、それでは不十分なんです。本当にやった人、変わった人が。

委員の中で、口コミによる情報発信の効用ということがあったのですが、まさに、こんなことがよかったとか、そういったコメント的なといいますか、感想でもいいです。そういったものを、もっと発信していくような、数量的なものだけではなくて、参加した人、あるいは、それに携わった人の感想や意見等も、ぜひ、こういった資料にも欲しいと思います。そういったものが、もっと発信されていけば、「じゃあ、やってみようか」ということにつながることもあると思います。

そういった面では、先ほどから言われているように情報の問題もありますけれども、それぞれの委員の発言をもとにして次から次へとつなげてきたわけですけれども、ぜひ、こういったことは言っておきたいということ、あるいは、いままでの発言の中で、こういった問題があったということを、どうぞ各委員の方からお願いします。

〔松下委員〕

ターゲティングをフォーカスすべきと申し上げましたが、いま非常に素晴らしい資産もあるので、それを有効活用すべきなのかなと思います。

例えば、われわれも関わらせていただいていたので言うのですが、奈良マラソンも素晴らしい大会に

なっていると思います。参加者の満足度も含めて、運営自体も素晴らしいし、何より大きな経費を使っていないところが最も素晴らしいところであると思うんです。東京マラソンと比較した場合においてもですね。

では、その奈良マラソンを走るだけでいいのかと。せっかく奈良公園があって、あれだけのフィールドがある。いまどきは野外ヨガも当たり前のようにやられている。「では参加者全員で野外ヨガをやりましょう」という組み立てみたいなことも非常に楽しいと思います。

それが、仏教伝来ではないですがインドから奈良にというところで、「奈良で、こう進化しました」というストーリーのようなものがあって、もろもろのイメージをして出来上がっていくと思いますけれども、その場合に女性の企画の存在が、ものすごく重要だと思います。一つには、スポーツにおいてですね。

それから、もう一つお願いしたいのは、これだけ多くのインバウンドの方々が、特に奈良県は増えてきていると聞いていますし、関西は、大阪が東京を抜く状況になっていると聞いているんですけれども、近鉄の電車に乗っていても、神社仏閣の写真は見ますがスポーツのシーンは、奈良県ではまったく見ません。

これだけの素晴らしいアウトドアスポーツのフィールドとしての環境があるので、それをしっかりとＰＲしていただいて、インバウンドの方にスポーツをしていただくことによって、逆に県の方々に刺激を与える。見るスポーツを、するスポーツに変えていくというようなことも要素としては重要ではないかと思います。素晴らしい資産をお持ちなので、それを発展的にしていくことによって変わっていくのではないかと思います。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

〔福西委員〕

施設のことでお話ししたいのですが、バスケットのプロリーグが奈良県で発足しました。プロリーグを目指すチームということでサッカーがクラブとしてあり、プロ野球のオープン戦、バレーのＶリーグ、ラグビーのトップリーグ、女子サッカーのなでしこということで、これが奈良県内の施設の中で、ここ最近は集客力が上がってきていると聞いています。

先日行われたラグビーのトップリーグで、アマチュアでもありますけれども日本のトップリーグで、収容人数は５千人らしいですが約４千人が集まっている。あと、プロリーグではありませんけれどもサッカーの日本リーグで、毎次１千人から２千人ぐらいの規模の集客力があるということで、最近は奈良県の中でも、そういう施設を利用したスポーツのイベントにも人が集まってきていると。

先ほどお話にありました国体が、13 年後に２巡目の可能性があると。あと、オリンピックやマスターズのスポーツイベントも今後続くであろうということで、県立のスポーツ施設のグランドデザインを変えていかないといけない時期なのかなと思っています。

それも話の上だけではなく、実際に、どんな種類で、どんな大きさで、どんな場所で、どんな運営方法を採って、事業費はどれぐらい掛かって、整備のスケジュール感も含めて、どういうものをやっていったらいいのかと、ぜひ具体的に整備の計画の準備を、この機会に始めていただければと。

現状は、約 30 年前のわかくさ国体のときに整備と改修が行われたと。実際の建築というのは、特に陸上競技場などの大きな施設については 50 年近くたっているのではないかと。整備は当然あると思い

ますが、そういう観点からも、実際には全国大会であったり、プロの大会であったりするには少し不十分ではないかなと。

ただ箱物をつくっていては駄目な時代ということは、もう皆さん、よくお話に出るところで、活動拠点としては、陸上であれば走れるかどうかというのが施設では当たり前ですけれども、最近は、にぎわいをつくるとか、まちづくりに関与するということで集客できるとか。

先ほど御杖村の方でもありましたけれども、これが奈良県の１カ所に全部が集中してある必要があるのかどうか。にぎわいをつくるのであれば、もう少し拡散してもいいのではないかとか、そんなことを考えながら、もう少し明確にしていかないといけない。

奈良県の中でも、費用が掛かることではありますけれども、ランドマークになるような施設が一つぐらいあった方がいいのかなと。それも複合施設で、日ごろのプロスポーツのイベントだけではなくて、ホテルであったり、コンサートができたり、先ほどの話でリハビリの施設があったり、オフィス、教育、塾、当然、プロ球団も。これは、アリーナか球場か陸上競技場かは別にして、プロもできる。災害対策にも当たる。そういう複合的な施設は、やはり必要ではないかと思っています。

種類でいきますと、アリーナは体育館ですか。陸上競技場、野球場、サッカーやラグビー、アメリカンフットボールなどの球技場。それに、奈良県では、やはり武道。相撲発祥の地とも言われていますので、できれば武道場。そういうのが必要ではないかと思っています。

ただスポーツ施設をつくるだけではなく、ここにはいろいろな方もいらっしゃいますので、ぜひ、そういう人の意見も聞きながら、運営方法で、最近はドーム球場しか、なかなか黒字化されていないと。それはスポーツではなくてイベントが多く開催されることで、屋根付きで、いつでもできると。

朝原先生が言われました全天候型の施設。全天候型というのは、女性がいらっしゃいますけれども、やはり女性の方にやっていただこうと思ったら、ある程度、そういうものも必要だということを踏まえて、これを機会に何とか計画の盛り込みといいますか、策定を現実にしていただけるような議論を進めていただければと思います。

これはお金の掛かる話で非常に大変だと思いますけれども、ぜひ、そういうものも必要であると。それが地域のにぎわいであったり、まちづくりの一つとしてできればと。これは個人的ですけれども、一つは、金もうけのできるスタジアムが、アリーナなのか球場なのか分かりませんけれども、そういうことを徹底的に考えたような施設がスポーツ発信の地となるようなことを考えていただければと思います。

国体が 13 年後ということで、すぐ来ますので、いまから、ぜひ始めていただければと思います。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。確かに大きなイベント等を誘致せざるを得なくなるような場合もあるのですが、バリアフリーも完備した施設というのは、県の顔でもあるのではないかという意味で、そういった施設も必要と思います。

日常的にやる場合においては、ぜひ学校の施設を、もっと開放してほしいと思っています。放課後に子どもたちの居場所がないといいますか、学校に残って、いろいろやりたいのに締め出されることがないように、コミュニティーの中心は学校ですから、それが活用できるような方策を考えてほしいと思っています。

私の住宅の辺りも、非常にきれいな公園は幾つかあるんですが、あるのは、いつも滑り台とぶらんこと鉄棒と砂場ぐらいのものですね。あとの芝生のところは、あれをやっては駄目、これをやっては駄目

と禁止事項ばかりが多くて子どもたちが遊ばない。

むしろ駅前の広場で、アスファルトで舗装してあって本来なら運動する場所ではないようなところで、子どもたちが自分たちで工夫して遊んでいるというのは、そういった意味で、何で学校を、もっと開放しないのだろうと思います。当然、そこには管理責任等いろいろあって、それを教員の負担にするのかと。こういうところにこそボランティアを募るといった工夫を、ぜひ求めたいと思います。

それから、施設をつくっても、それきりで、本当にお金を掛けないといいますか、インフラの整備がなされず、およそ、そこへ行って運動しようという気にならないような状態になっている。昔はきれいだったのかもしれないですけれども。

私も夏に水泳を始めて、どこか、やるところはないかと、いろいろ探して、奈良の福祉センターのプールを見つけたので泳ぎに行っていますが、これも、つくってはあっても、やはり、もう少しきれいにしてもいいのではないかなというのと、必要に合わないロッカーだとか、開放時間ですね。

奈良から大阪や京都へ通っている人は結構多いので、もう少し時間を遅らせるなどの工夫をしてもらえたら、もっと利用できるのではないかと。そういった面も含めての情報発信も、ぜひ検討していただきたいと思っています。

そのほか、委員の方からどうぞ。

〔朝原委員〕

健康寿命、長寿に戻して言うと、まず運動する年代はさまざまですが、子どものときの運動体験は結構大事だと議事録にも書いてありましたし、私もそう思います。私の場合は陸上競技で体力をつけてきたわけではなくて、遊びまくって体を動かすのが楽しいということで、いろいろ運動して競技の世界に入って行ったんですが、まず小さい子どもたちで、その次に学生になって、社会人になって、親になって、高齢者になるということで、さまざまなスポーツへの関わり方があると思います。

まず、その入り口として、子どもたちがスポーツに接する機会を与えましょうということも、ここに盛り込まれて、私も、そのとおりだと思っているんですが、親も忙しいし、子どもたちを昔のようにほったらかしで、私みたいに外で遊んで体力をつけるのは難しくて、習い事ばかりさせるということが、ほとんどだと思います。

親も、僕もそうなんですけどイベント以外はあまり動かないです。面倒くさくてスポーツをしないんですね。何でしないかというと、楽しそうなものが、いまのところはない、手軽なものがないというのが一つの理由です。

最終手段としてやるのが、僕のイベントに子どもを連れて行って一緒に体を動かすと、子どもの予定と親の予定を全て一緒に盛り込めるので、ここに書いてあるようにファミリーでスポーツに楽しむ機会づくりというのは、すごくいいと思います。

ビジネス世代と子どもが一緒に動けるということで、これを、どんどん、いろいろな種目と言うとあれですけど、遊びでも何でもいいので一緒にやる機会を増やしていくのは、すごくいいことだなと思います。

もう一つ、子どもで言うと、体力テストを全国でやっていますが、僕はいつも、これは何のためにやっているのかと思うんです。というのは、50メートル走が速かったら何なんですかと思うんですね。ソフトボールを遠くに投げられたら何なんですかと思うんです。

もちろん、投げられたり速く走れたら、それに越したことはないんですけど、みんなが野球選手や陸上選手になるのかといったら、そうではなくて、最低限の体力をつけていきましょうという意味で体力

テストは行われていると思うんですけれども、昔から、ずっと同じことをやっていて、大人になって選手になった人は、それがきっかけだと言うかもしれないですが、一般の人が何のために、あんなことをしたのかが分からないので。

奈良県は健康と言うなら、何か新しい、体力テストなのか健康チェックなのかは分からないですが、そういうのを開発して、将来こんなことにつながるのではないかという研究をするなどしないと、古くさい、何十年前とずっと同じ体力テストを続けていて、このまま、ずっと行くのかなと思っているんですけど。

これを、奈良県発の何かすごい、こういう相関関係が出ましたとかいうのをやると、ものすごく時間はかかって、何十年後かにしか結果は分からないかもしれないですが、そういうのに着手するとか。

それも、大人から無理やり最高値を求められるようなものではなくて、巧みに体を使えるようなことを取り入れたり、もうちょっと子どもたちが楽しくできるような測定や運動を考えだしたり、つくることで、もうちょっと機会が増えるのではないかと思います。

高齢者やビジネスパーソンが、もっと運動に親しめる機会も、もっと増やす必要が。ここに全部書かれているんですけど、そのやり方ですよね。私もいろいろ考えているんですが、心が動かないと、みんなやらないので。

それか脅すかですね。このまま行ったら何歳で死にますよと言わないと、みんな動かないので。そんなのは面白くないから、やっぱり、わくわくするような方策を何か考えたらいいかなと思っています。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

〔松永委員〕

いまの朝原委員の意見は、ごもっともで、京都府さんは小学生に、決められた体力測定以外に独自の測定というか活動を、教育委員会としてつくられて、その測定をされていて、立ち会ったときに、その内容も評価の一つにしているということです。時間がないので具体的には、あれですけれども。相関関係までは、まだ出されていないと思いますが、いまおっしゃったように、それを独自でやっておられる都道府県は、ほかにもあるかもしれませんので、参考にされたらどうかなと思いました。

１点、関連で、いまお話のあった、２番の「子どもを健やかに育むスポーツの推進」で気になったのが、子どもの定義は、中を見ると中学生までというイメージですが、指標の案のところで、中２のところは児童とあって、これは生徒かと思いますけれども、これは文言修正をお願いしたいのと、子どもの定義というところが、おおむね中学生までという理解でいいのかということです。よろしいですか。はい。

あと、先ほど中村委員から部活動のお話がありましたが、もう行政の方はご存じかと思いますけれども、中学校を中心とした部活動の新しい免許ができる方向で準備が進められています。

それに向けて奈良県さんは、できるだけ、国全体が、そういう動きになるとは思うんですけれども、その体制づくりというのも。中村委員のお話ともリンクしてきますし、おそらく、それも見越して、２番の（２）②学校部活動・地域部活動の充実とあるのは、たぶん、そのことだと思っています。

その辺りも、ほかの都道府県よりも、いち早く導入というようなところで積極的に、その活用がうまく円滑に回るような仕組みを事前に準備されると、奈良県らしさが、また出てくるかなと思います。

〔佐久間会長〕
ありがとうございました。ほかの委員の方からも、ぜひこれは言っておきたいということをお願いします。

〔中村委員〕
ここへ来て不思議に思うことは、スポーツと言うと競技スポーツを連想するんです。いままでの中で、体を動かす、長寿社会に生き抜く、これは普通の運動ですね。その中には、もろもろの全部が入っているわけです。
スポーツ推進計画と言ったら、スポーツに親しむとか各種競技スポーツとか、どうしたら、われわれが毎日の生活で健康な体を維持する、体を動かすことはスポーツかということになると、ちょっと意見が。これは全国で、スポーツ庁からのスポーツ推進計画で統一しているんですか。

〔事務局〕
国の方はスポーツ基本計画と、スポーツという言葉を使っているのですが、計画の本体で、最初に趣旨のところで付記をさせていただいています。確かに委員のおっしゃるとおり、運動とスポーツという両方の要素があります。
定義としては、運動というのは自らの意思に基づいて体を動かすことで、スポーツはルールに基づいて運動を行うものです。そこは計画の中に付記した上で、表題としてはスポーツという言葉にまとめて計画に表記しているところです。国も同様の形を採っております。

〔中村委員〕
分かりました。

〔佐久間会長〕
こうやって話をしているのも、私は専門が運動なんですね。ですから、運動が広い概念で、その中にスポーツというのがある。体育は、もっと狭い感じですね。
やはり継続性という面では楽しさを伝える工夫。スポーツというと、歯を食いしばって頑張るというイメージがあるかもしれませんが、それも、ある意味で成長には必要なことかと思うのですけれども、やはり楽しさを伝えるための工夫。これを伝えられるのは、いろいろ経験した人でないと分からないのかなと思います。
話は飛びますが、運動の効用という面では、だいぶ前ですけれども、脳を鍛えるには運動しかないということが、はやったことがあります。アメリカのイリノイ州の小学校の例で、ゼロ時限体育といいますか、授業の前にやると、かえって集中力が高まって気持ちも晴れ晴れとするという、いわゆる運動後の爽快感で快感情が高まって授業に集中できるということをやっていて、実際にデータとしても出ています。こういったことを学校に、ぜひやってもらいたいと思います。
いろいろな箇所にスポーツ医科学の活用とかサポート体制と出てくるのですが、これはボランティアと関連していて、奈良には有名な体育系の大学もありますし、あるいは県内でも七つぐらいですか、大学がありますけれども、それぞれに体育指導に関連する専門家もおられるわけですから、そういったところを、あるいは学校も含めた組織化をして、もう少し系統だった指導体制というか、子どもたちに対する関わり方を検討できる余地があるのではないかと思っています。

何しろ既存の施設をいかに活用するかということを、ぜひ考えてほしい。その一番大きな財産となっているのが学校ではないかと。そこに携わるボランティア的なものは、大学生も含めて、いろいろな人材を活用していくと予算的には、そんなに掛からないと思います。ぜひ、そういったかたちで薦めたいということと。

それから、オリンピック・パラリンピックの件で、私の関係している他県に比べたら、ちょっと出足が悪い感じを受けるのですが、こういったことに関わるボランティア等を養成していくには非常に多方面の人材を求めなければいけないと思いますし、そういう中で手っ取り早いのは学生だろうと思っています。そういった人材の活用等も含めて考えてもらいたいと思っています。

ほかに、委員の方で言い忘れたこととかどうぞ。

〔福西委員〕

一つ言い忘れていたんですけど、低年齢層の方もスポーツをしていただきやすい環境をつくるということで、私どもが現場でつくづく思うのは、女性というか、子育て世代のお母さんがスポーツ好きであれば子どももスポーツをしてくれます。

先ほども千葉委員にお聞きしたんですけれども、子どもを、すっと預けて、ぱっとできるような。あと、日焼けをするから中でできるようなスポーツ施設とか、特に子育て世代の女性の方がスポーツをしやすい環境づくりというのは、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

先ほど施設の話を長々としたんですが、施設が欲しいというよりは、にぎわいの場といいますか、まちづくりの拠点としてのものが地域にできてほしいというのが一番です。球技場といっても、べつにサッカーの試合がメインではなくて、そこでコンサートがあったり、自動車ショーがあったり、そういうものが複合的にできるような、地域を活性化できるようなものができていくことが望ましいのかなというふうな意味で、お話をさせていただいたつもりです。

何度もすみません。ありがとうございます。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。ほかに委員の方々で、ぜひこれだけは、あるいは、こういった現状を知ってほしいということをどうぞ。

〔伊藤委員〕

総合型地域スポーツクラブというのがうたわれていますが、お恥ずかしい話ですが、この冊子をいただいて地図を見ましたら、うちを含めて３村だけが、まだ準備をしていないということで、白で色分けされています。

総合型地域スポーツクラブということになりますと多種目・多世代とかいうことになるんですが、私どもですと、種目も含めて、なかなかそういうクラブというのがつくれない状況です。

その場合に、スポーツクラブによる推進ということになると、かなり難しいのではないかと。４月から設立準備委員会をしていくということで、委員さんを募って考えてもらうことになっているんですけれども、実際のところは、ここにあるような理念でいけるのかどうか心配しているところです。

こういうのは、多種目ということは考えなくていいのでしょうか。この地域で、できる種目というふうに解釈したらいいのでしょうか。その辺も含めて、なかなか推進が難しいのではないかと思っていますので、もし「こういうことで」と教えてもらえる部分があったら聞きたいのですが。

〔事務局〕

総合型地域スポーツクラブの一次的な定義としては、やはり定義は必要ですので、多世代、多種目、多志向、これは競技レベルを指していますが、そういうものを総合型地域スポーツクラブということで全国に普及するという動きがあります。

特に許可制度や登録制度があるということではございませんので、いまおっしゃるように地域の実情に応じてというところです。年齢構成等もございますので、その中で、御杖村さんで準備委員会を立ち上げていただいて育成率も上昇しているということですので、そこは県のクラブアドバイザーというものを配置しておりますので、また個々にご相談させていただきたいと思います。

何も、種目の数を用意しないといけないというスタートではなくて、その地域に合った、ニーズに応じたような種目からスタートしていただければ、それで十分に地域としてのスポーツ推進をしていただく原動力になると思いますので、その辺りは、あまり、今回は定義付けありきではない取組ということで、われわれもサポートさせていただきたいと思っています。

〔佐久間会長〕

それでは、予定した終了時間に近づいてまいりましたので、委員の方々のご意見がなければ。

最後に、これは 11 名の委員の方々にいただいたご意見を基に整理したものですが、図中のＡＳというのはエリアサービスのことで、場所の問題を取り上げたこと。ＣＳがクラブサービスで、人を集める、組織化といった問題が関わるものです。ＰＳはプログラムサービスのことで、こういったスポーツ教室や集まりがありますとか、そういうものをやりませんかといったものです。

あとスポーツの価値・在り方とか指導者の育成等、いろいろ整理していますけれども、やはりプログラムサービスが一番多くて、その次に情報発信が多い。先ほどから委員の方々も仰っておられますが、情報発信が不足していると。こちらの方を、もう少し努力していただかないといけないのかなと思っています。私の資料の説明は以上です。

それでは、いろいろと貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。事務局の方々におきましては、今回、司会進行がまずくて、まとまりがなかったかもしれませんが、本日いただいた意見を参考にして推進計画の見直しを詰めてもらいたいと思います。

最後に、その他の説明をお願い致します。

2）その他

〔司会〕

その他と致しまして資料７、スポーツ推進計画見直しのスケジュールについて簡単にご説明させていただきます。８ページをお願い致します。

今日が平成 29 年９月７日、スポーツ審議会で、ただいま委員の方々から貴重なご意見をいただきました。これによりまして計画の骨子案を検討いただいております。この骨子に基づきまして計画案を作成する作業に入らせていただきます。

その計画案につきまして、12 月の下旬ごろに計画案の審議を、この審議会でしていただきたいと思っています。12 月の大変お忙しい時期とは存じますが、また出席をよろしくお願い致します。

ここで計画案を作成致しまして、１月にパブリックコメントをさせていただき、３月に策定というス

ケジュールで進めさせていただきたいと思っています。

〔佐久間会長〕
ありがとうございました。委員の皆さま方、本日はありがとうございました。

〔福西委員〕
４ページ目の一番下にある計画推進のところに、実践協議会の設置、運営計画ということで、構成イメージということで、こういう組織づくりをいつするかということについても次の計画案のときに出てくるということですか。はい、分かりました。

〔佐久間会長〕
ありがとうございました。それでは事務局にお返し致します。

6　閉会

〔事務局〕
長時間、どうもありがとうございました。貴重なキーワードを幾つかいただいたと思っています。ご提言、ご意見を、もう少し勉強させていただいて、この骨子案に沿ってというだけではなくて、見直すところは見直すということで考えさせていただいて、何とか内容を年内をめどにまとめていきたいと思っています。
それに当たりましては委員の皆さんに、個々に随時、事務局の方から相談にも上がることになろうかと思いますので、ぜひとも、よろしくお願いしたいと思います。本日は、どうもありがとうございました。

〔司会〕
以上をもちまして審議会を閉じさせていただきます。本当にお忙しい中、ありがとうございました。

以上

以上の事項は、事実と相違ないことを証明する。

平成　30　年　　3　月　19　日

議事録署名人
福西達男　印

議事録署名人
宮内義純　印